



認証番号 0003625

環境経営システム エコアクション 21

環境経営レポート



成光運輸株式会社

令和5年度版（令和5年7月1日～令和6年6月30日）

令和6年11月30日発行

目 次

①組織の概要	P.2
②環境経営方針	P.3
③認証・登録対象範囲及び実施体制	P.4
④過去の環境負荷実績	P.5
⑤環境経営目標	P.7
⑥令和5年度環境経営目標と取組内容及び結果評価	P.8
⑦環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無	P.16
⑧代表者による全体の評価と見直し・指示	P.17

① 組織の概要

事業所名	成光運輸株式会社
代表者名	代表取締役 飯沢 宗光
所在地	〒193-0931 東京都八王子市台町三丁目 27 番地 19 号
連絡先	TEL : 042-624-7530 FAX : 042-623-0812
環境管理責任者名 及び連絡先	飯沢 由里香 E-mail : iizawa0524@bb.wakwak.com ※環境に関する連絡のみのメールアドレスですので、 ご注意ください。
事業活動内容	●限定区域貨物自動車運送事業 (昭和 40 年 12 月 13 日許可 65 東陸自 2 貨 1 第 2451 号) ●一般区域貨物自動車運送事業 (昭和 59 年 4 月 4 日許可 84 東陸自 2 貨 2 第 526 号) (平成 11 年 6 月 17 日許可 関自振第 1757 号) ●自動車運送取扱事業 (平成 2 年 10 月 25 日登録 関運自登第 12548 号) ●軽車両等運送事業 (昭和 60 年 4 月 8 日届出)
創 立	昭和 40 年 12 月 20 日
資 本 金	1,000 万円
従 業 員 数	18 名
敷 地 面 積	722 m ²
事 務 所 面 積	70 m ²
倉 庫 面 積	70 m ²
売 上 高	●令和 3 年度 (R3 年 7 月 1 日～R4 年 6 月 30 日) : 202 百万円 ●令和 4 年度 (R4 年 7 月 1 日～R5 年 6 月 30 日) : 193 百万円 ●令和 5 年度 (R5 年 7 月 1 日～R6 年 6 月 30 日) : 192 百万円
保有車両数	18 台 4 トン車 (ウイング型) …3 台 3 トン車 (平ボディ型) …2 台 2 トン車 (ウイング型) …1 台 2 トン車 (バン型) …9 台 (うち、1 台パワーゲート付) 軽貨物車…1 台 乗用車…2 台

② 環境経営方針

基 本 理 念

成光運輸株式会社は、創業から半世紀に亘り、関東首都圏を中心とした運輸業を営んでおり、環境問題が21世紀の世界共通の課題であることを深く認識しています。輸送事業者としては、守るべき最低限のルールである法令遵守は当然のことですが、公共の道路を利用して事業を営んでいるほか、環境や安全にも多大な影響を及ぼしていることから、より環境問題に積極的に取り組むべき社会的責任が求められています。

また国内貨物輸送の約9割はトラック輸送が担っていますが、近年「ドライバー不足」やこれに伴う「ドライバーの高齢化」が課題となっています。

これからの成光運輸株式会社は、人と地球にやさしい環境づくりに貢献するための環境保全と安全輸送を強化し、更には全従業員の健康維持増進を図る健康経営に取り組み、事業継続経営100年をめざしていきます。

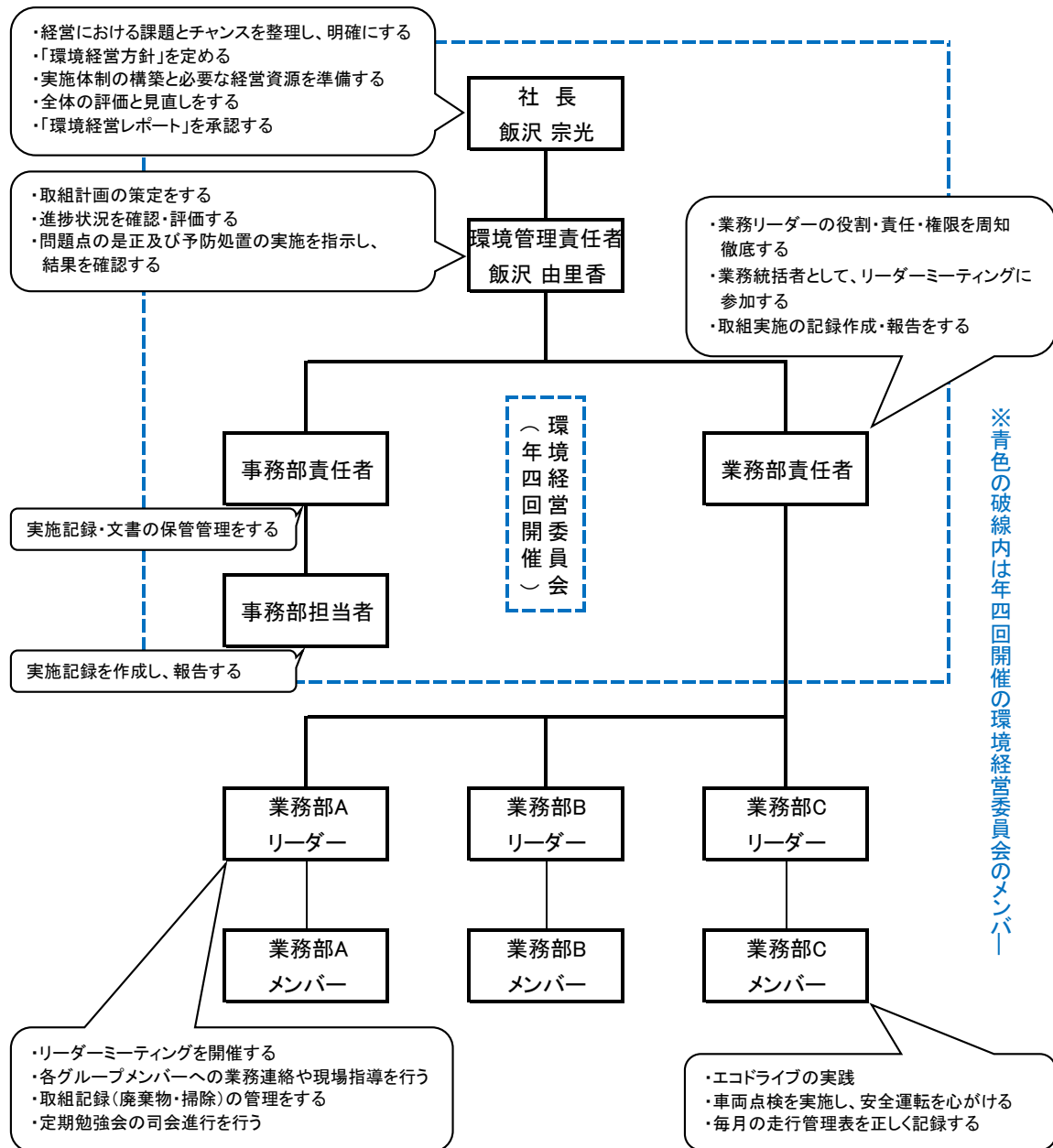
方 針

1. 環境経営システムを構築・運用し、環境経営に積極的に取り組むことにより、継続的な環境負荷の削減に努めます。
2. 当社に適用される環境関連の法規制等を遵守します。
3. 当社の事業活動を踏まえ、重点的に以下の環境経営活動に取り組みます。
 - (1) 二酸化炭素排出量の削減
 - ① 電気使用量の削減
 - ② ガス（LPG）使用量の削減
 - ③ 車両燃費の向上
 - (2) 水使用量の削減
 - (3) 廃棄物排出量の削減
 - (4) エコ製品の積極的購入
 - (5) 地域貢献活動の実施
4. この環境経営システムの機能を効果的・効率的に推進していくために、社内の実施体制を確立し全従業員への環境教育に努めます。また、全従業員が健康への自己管理ができるような衛生教育に努めます。
5. この環境経営方針を達成するために、環境経営目標を設定し、定期的に見直し環境経営改善に努めます。

令和3年7月1日 成光運輸株式会社
代表取締役 飯沢 宗光

③ 認証・登録対象範囲及び実施体制

- ・取組の対象は、当社の全組織・全活動とする。
- ・環境経営システムを構築・運用し、環境経営への取組を効果的に実施推進するための組織図及び各員の役割を定める。



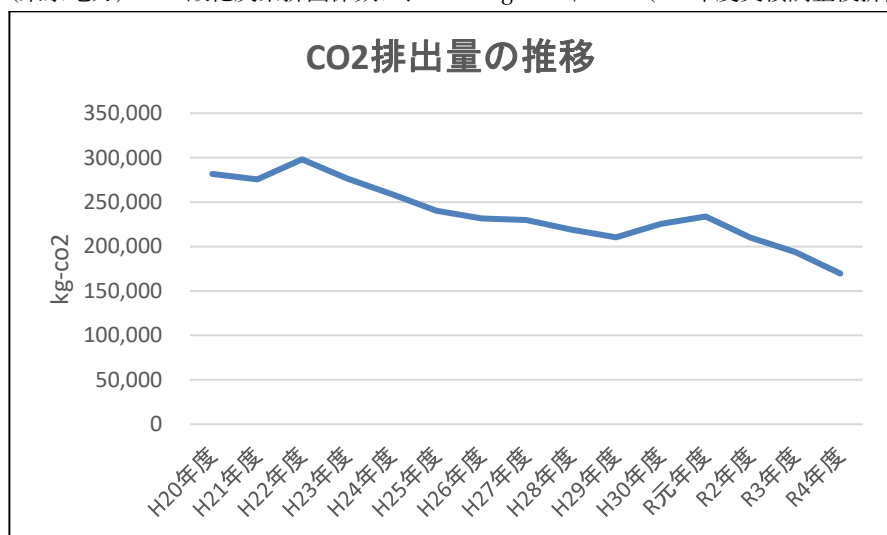
④ 過去の環境負荷実績

【「エコアクション 21」開始以降 15 年間の二酸化炭素排出量の推移について】

●二酸化炭素排出量（平成 20 年度～令和 4 年度）

CO2 排出量	単 位	H20 年度	H21 年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度
	kg-CO2	281,828.41	275,732.52	298,068.41	276,749.91	258,999.59
CO2 排出量	単 位	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度
	kg-CO2	240,160.07	231,709.62	229,886.98	219,140.00	210,463.39
CO2 排出量	単 位	H30 年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度
	kg-CO2	225,428.87	233,662.72	210,022.13	193,793.99	169,606.05

※購入電力（東京電力）の二酸化炭素排出係数は、0.441 kg-CO2/kWh（R2 年度実績調整後排出係数）使用



【過去 3 年間（令和 2 年度～令和 4 年度）の重点的取組 7 項目の実績について】

●電気・化石燃料使用量及び二酸化炭素排出量

項 目		単 位	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
電気	使用量	kWh	6,382	6,919	6,041
	CO2 排出量	kg-CO2	2,814.46	3,051.28	2,664.08
ガス (LPG)	使用量	kg	433.04	501.16	386.88
	CO2 排出量	kg-CO2	1,299.13	1,503.48	1,160.65
軽油	使用量	ℓ	78,359.67	71,929.77	62,921.92
	CO2 排出量	kg-CO2	202,167.95	185,578.81	162,338.55
ガソリン	使用量	ℓ	1,612.32	1,577.77	1,483.95
	CO2 排出量	kg-CO2	3,740.58	3,660.43	3,442.76
CO2 排出量合計		kg-CO2	210,022.13	193,793.99	169,606.05

※購入電力（東京電力）の二酸化炭素排出係数は、0.441kg-CO2/kWh（R2 年度実績調整後排出係数）使用

●水使用量の削減

項 目	単 位	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
水使用量	m ³	88.5	89.5	77.0
総排水量	m ³	88.5	89.5	77.0

令和 2・3 年度は、コロナ禍により出社・帰庫時の手洗いを徹底した為、水使用量が増加した。

●廃棄物排出量の削減

項 目	単 位	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
資源紙ごみ	kg	393.3	323.9	388.1
可燃ごみ		55.9	61.6	53.0
不燃ごみ		48.5	39.6	0.0
産業廃棄物		0.0	0.0	590.0
廃棄物総排出量	kg	497.7	425.1	1,031.1

令和 2・3 年度の資源紙ごみの含有率は、70%以上を占めていた。

令和 4 年度は 1 階倉庫の片付けで産業廃棄物を排出したため、資源紙ごみの含有率は廃棄物総排出量の約 38%となった。

八王子市では事業活動で排出するごみが少量の場合特例的に収集する制度があり、当社はその制度に登録している。（登録制：八王子市少量排出事業系ごみ収集制度）

令和 4 年度では可燃・不燃ごみの対象品目の変更（金属類・ガラス・せともの類のみ）があり、不燃ごみの排出はなかった。

●エコ製品の積極的購入

項 目	単 位	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
対象物品の購入	%	100	100	100

対象物品は、事務用品（コピー用紙等紙製品、文具類）、チャート紙（運行記録紙）、ティッシュペーパー等の日用紙製品、コピー機である。

●地域貢献活動の実施

項 目	単 位	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
施設周辺の清掃回数	回	69 (5 回/月)	75 (6 回/月)	63 (5 回/月)

地域貢献活動として、施設周辺（事業所前の公道や隣接水路等）の清掃をしている。

⑤ 環境経営目標

・重点的取組 7 項目の環境経営目標について述べる。

項 目	基準年	環境経営目標			
	令和 2 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	
(1)二酸化炭素排出量の削減	210,022.13 kg-CO2/年	R2 年度比 15%削減 178,518.81 kg-CO2/年	R2 年度比 16%削減 176,418.59 kg-CO2/年	R2 年度比 17%削減 174,318.37 kg-CO2/年	
		①電気使用量の削減	6,382kWh/年	R2 年度比 1%削減 6,318kWh/年	R2 年度比 2%削減 6,254kWh/年
	②ガス(LPG)使用量の削減	433.04kg/月	R2 年度比 3%削減 420.05kg/月	R2 年度比 5%削減 411.39kg/月	R2 年度比 7%削減 402.73kg/月
	③車両燃費の向上	【 軽油 】 6.91 km/ℓ	R2 年度比 4%向上 7.19 km/ℓ	R2 年度比 5%向上 7.26 km/ℓ	R2 年度比 5%向上 7.26 km/ℓ
		【 ガソリン 】 15.18km/ℓ	R2 年度比 1%低下 15.03km/ℓ	R2 年度比 1%低下 15.03km/ℓ	R2 年度比 1%低下 15.03km/ℓ
(2)水使用量の削減	88.5 m³/年	R2 年度比 3%削減 85.8 m³/年	R2 年度比 4%削減 85.0 m³/年	R2 年度比 5%削減 84.1 m³/年	
(3)廃棄物排出量の削減	497.7kg/年	R2 年度比 同値 497.7kg/年	R2 年度比 同値 497.7kg/年	R2 年度比 同値 497.7kg/年	
(4)エコ製品の積極的購入	対象物品の 100%購入	対象物品の 100%購入	対象物品の 100%購入	対象物品の 100%購入	
(5)地域貢献活動の実施	施設周辺掃除 48 回/年 (4 回/月)	施設周辺掃除 48 回/年 (4 回/月)	施設周辺掃除 48 回/年 (4 回/月)	施設周辺掃除 48 回/年 (4 回/月)	

⑥ 令和5年度環境経営目標と取組内容及び結果評価

項 目	環境経営目標	実 績	評 価
(1)二酸化炭素排出量の削減	178,518.81kg-CO2/年	171,875.98kg-CO2/年	○
①電気使用量の削減	6,318kWh/年	6,625kWh/年	×
②ガス(LPG)使用量の削減	420.05kg/年	360.80kg/年	○
③車両燃費の向上	【 軽油 】 燃費 7.19km/ℓ	【 軽油 】 燃費 7.77 km/ℓ	○
	【 ガソリン 】 燃費 15.03 km/ℓ	【 ガソリン 】 燃費 14.48 km/ℓ	×
(2)水使用量の削減	85.8 m ³ /年	62.5 m ³ /年	○
(3)廃棄物排出量の削減	497.7kg/年	410.5kg/年	○
(4)エコ製品の積極的購入	対象物品の 100%購入	対象物品の 100%購入	○
(5)地域貢献活動の実施	施設周辺掃除 48回/年（4回/月）	施設周辺掃除 51回（4回/月）	○

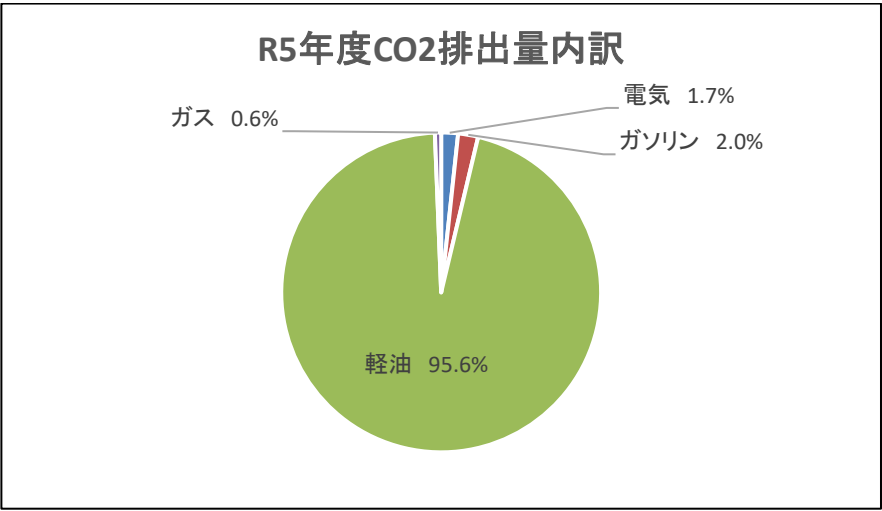
※評価については、単純評価（目標達成：○ 未達成：×）とする。

●電気・化石燃料使用量及び二酸化炭素排出量

項 目		単 位	令和5年度
電気	使用量	kWh	6,625
	CO2 排出量	kg-CO2	2,921.63
ガス (LPG)	使用量	kg	360.80
	CO2 排出量	kg-CO2	1,082.40
軽油	使用量	ℓ	63,718.80
	CO2 排出量	kg-CO2	164,394.50
ガソリン	使用量	ℓ	1,498.90
	CO2 排出量	kg-CO2	3,477.45
CO2 排出量合計		kg-CO2	171,875.98

※購入電力（東京電力）の二酸化炭素排出係数は、0.441kg-CO2/kWh（R2 年度実績調整後排出係数）使用

※ガス（LPG）1 m³=2.07 kg



令和5年度のCO2排出量は、目標値より3.8%削減にて目標達成した。
例年同様、令和5年度のCO2排出量の95.6%が貨物自動車の軽油使用からであった。年間保有車両数や走行距離数が毎年一定ではない為、貨物自動車全車の平均燃費を向上させることがCO2削減に繋がる。
そこで、この貨物自動車燃費を上げていくことに注力する。

次に、各項目の主な取組内容を紹介し、結果に至った考察を述べる。

●電気使用量の削減

取組内容	環境目標	実績	評価
・ 社内の電気をこまめに消す ・ エアコン設定温度を冷房 27℃、暖房 22℃にする ・ エアコン使用頻度を減らす ・ 退社者が最終消灯チェックをする	6,318kWh/年	6,625kWh/年 目標値より 5%増加	×
 照度を測定し、必要最小限の照明で始業開始 全照明はLED化し、日常間引き点灯する  節電・消し忘れの意識づけシール			

考 察
令和5年度の電気使用量は目標値より5%の増加となり、目標未達成となった。 年度始めである7月から連日、室温が29～31℃となり厳しい暑さとなった。そのためエアコン冷房使用中もなかなか室温が下がらず、この暑さは9月いっぱいまで続いた。しかし10月に入り、突然室温が平均20～24℃ほどにぐっと下がり、今度はエアコン暖房が必要になった。そして、こんな状態が翌年4月半ばまで続いた。 今や、四季から二季に変化したように思えるのである。 次年度は、従来の取組を確実に実施し、また使用期間が10年を過ぎたエアコンの交換等についても考える。

●ガス（LPG）使用量の削減

取組内容	環境目標	実 績	評 価
・ ガスストーブ使用頻度を減らす ・ 室温 20℃以下でガスストーブを使用	420.05kg/年	360.80kg/年 目標値より 14%削減	○
 室温・湿度を 温湿度計で確 認する 毎日10時・15時に 室温記録をとり、冷 暖房機器を使用し ている  ひざ掛けは冬期の必需品ですね 			
考 察			
令和5年度のガス使用量は、予想以上の削減により目標を達成した。 11月からガス暖房を使い始めているが、毎日室温を見ながらガス暖房を付けたり消したりしている。肌寒さをカバーするために膝掛けや重ね着は勿論の事、足首を温めるレッグウォーマーを着用したり、フットウォーマー等を使用する日常である。 暖房器具としては、エアコン暖房より断然ガス暖房の方が部屋全体の空気を暖め、長時間持続するという利点がある。また冬場の気温が以前より高くなっていることも、暖房器具使用頻度を少なくすることができた要因と考える。 ただ使用量は毎年の気候に左右されるので、引き続き使い過ぎにならないよう、室温・湿度管理を“見える化”することが大切である。 次年度は、令和2年度比5%削減の411.39kg/年をめざす。			

●車両燃費の向上

取組内容	環境目標	実績	評価
・自社の「エコドライブ十箇条」(※1)を守る ・所属協会のグリーン・エコプロジェクト (GEP) (※2) 参加により、ドライバー自身が走行管理表を記録し、燃費を把握する ・燃費結果やアナログ運行記録計から、不適切な走行ドライバーには定期的指導教育を行う ・毎月の安全運転教育を実施する。 ・近距離の移動には徒歩や自転車を利用し、遠距離の移動にはできる限り公共交通機関を利用する	【 軽油 】 燃費 7.19km/ℓ	【 軽油 】 燃費 7.77km/ℓ 目標値より 8%向上	○
	【 ガソリン 】 燃費 15.03km/ℓ	【 ガソリン 】 燃費 14.48km/ℓ 目標値より 4%低下	×
(※1)「エコドライブ十箇条」とは… 平成 26 年 5 月、ドライバー全員で自社独自のエコドライブ十箇条を作成した。同年 8 月に実践状況から一部内容改訂を行った。ギアチェンジの適切なタイミング回転数や高速道路走行 80 km/h 厳守など、自社ドライバーが守るべきエコドライブ内容である。			
(※2) グリーン・エコプロジェクト (GEP) とは… 「東京都トラック協会では、2006 年に新規事業として地球温暖化防止対策の対応を図るため、独自の CO2 等削減対策を盛り込んだ『グリーン・エコプロジェクト』を立ち上げた。『グリーン・エコプロジェクト』では、車両ごとに収集した燃費からデータベースを構築し、継続的なエコドライブ活動を推進・支援、CO2 排出量の削減や燃費向上に伴うコスト削減、事故防止等に向けた取り組みを展開している。 『グリーン・エコプロジェクト』の最終目標は、経営者・管理者・ドライバーの従業員一人一人が環境意識の向上による社会貢献・社会責任を主軸とした“環境 CSR(環境から進める経営改善)”を目指している。そのために、レベルアップセミナーや講習会を開催して、環境関連資料やドライバーのモチベーションを高める教育資料を提供し、環境問題に能動的に取り組めるよう支援している。このように継続的な活動を行うことで以下の 4 つの改善を図ることができ、“環境 CSR”へとつながっていく。 ① 社内環境の改善 ②交通事故減少 ③コスト削減対策 ④地球温暖化防止対策 (東京都トラック協会 HP より)			
 トラック運送事業者の交通安全対策等の取組みを評価し、一定の基準をクリアした事業所を「安全性優良事業所(G マーク)」として認定公表する制度		 東京都貨物輸送評価制度とは、都内に貨物を運送する緑ナンバー事業者を対象とし、前年度CO2削減取組を燃費データに基づき3段階で評価する制度	



●水使用量の削減

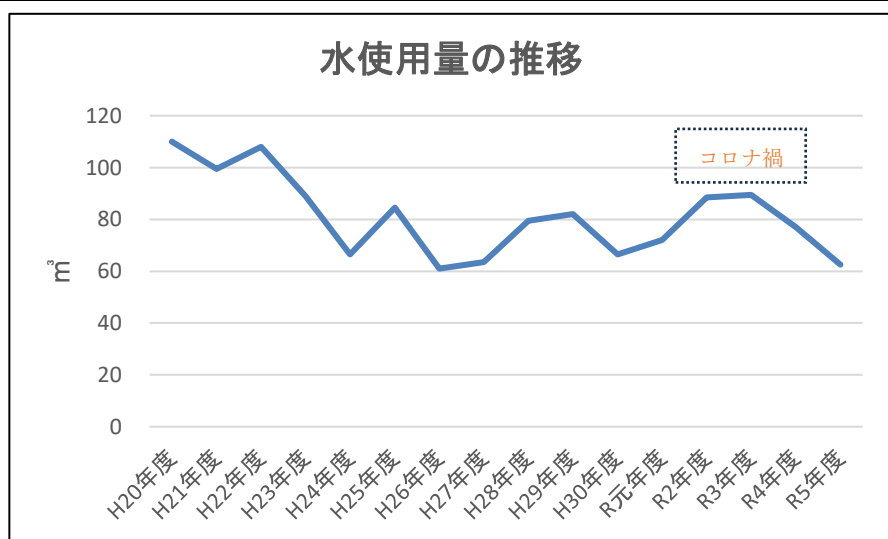
取組内容	環境目標	実績	評価
- 水道配管やトイレタンクからの漏洩を確認する - 洗車時、水量調節レバーを使用する - トイレ洗浄水は大小区別する	85.8 m ³ /年	62.5 m ³ /年 目標値より 27%削減	○



感染症対策をしながら環境対策も実施



トイレの流水区別と節水注意書き



考 察

令和5年度の水使用量は、目標値より27%減少し目標達成した。

感染症法分類の中で「新型コロナウイルス感染症」が5類になったこともあり、当社社員の手洗い習慣が少し緩くなったように思った。

また車両洗車は、かなり汚れた状態から洗車するのではなく、日頃からこまめに拭いたりすることで、大量の水洗車は必要なくなる。何事においても工夫すれば節水できると考えている。加えて車内の整理・整頓をしていれば、掃除もしやすくなるのである。

次年度も節水に取り組む工夫をしながら、目標値をクリアしたい。

●廃棄物排出量の削減

取組内容	環境目標	実 績	評 価
・ごみの分別排出を徹底し、資源化を推進する ・コピー用紙の裏面使用を徹底する ・ドリップコーヒー粉は乾燥させ、可燃ごみに出す ・個人ごみは持ち込み禁止とする ・一度使用した事務用品や業務備品等の再利用化を図る	497.7kg/年	410.5kg/年 目標値より 18%削減	○
 令和 4 年 4 月から分別方法が変わった	 ドリップコーヒー粉は乾燥させている		
 紙類のリサイクルは社会福祉法人が回収し、資金として利用してもらう	 社員への連絡には、 名前付きファイルを使用している		
考 察			
令和 5 年度の廃棄物排出量は年間 410.5 kg であり、目標値より 18%削減できた。 従来からの取組として、事務所社員各人は裏紙使用の小さなメモ用紙さえ集めてリサイクルするようにしている。事業所内ごみ箱の設置を最小限にし、かつ取組行動がきちんと守られているかを確認している。 また定期的に机の引き出しや周辺の整理整頓をすることは、余分な事務用品等の在庫をかかえずに済み、ごみ削減に繋がるはずである。 物を増やさず、必要になった時に購入する習慣を身につけることが大切である。 次年度も、引き続き従来の取組を確実に実施し、更なる削減を図る。			

●エコ製品の積極的購入

取組内容	環境目標	実績	評価
・エコマーク品や再生紙品を積極的に購入し、使用に努める ・エコ製品対象物品（紙製品・文房具類）だけに留まらず、日用品についても環境配慮製品を積極的に購入する	対象物品の100%購入	対象物品の100%購入	○
 65%のリサイクル素材を含む  環境ラベル付き商品や再生紙を選んでいる			
考 察			
今年度も目標を達成した。 紙製品の購入には、担当者が全てエコ製品か否かをチェックしている。 ユニフォーム（ポロシャツ）においてはリサイクル素材含有のものを取り入れ、季節に応じて色分けしている。 またペーパー類の日用品は、リサイクル製品を積極的に選び、購入している。 次年度も、引き続き目標達成に取り組む。			

●地域貢献活動の実施

取組内容	環境目標	実績	評価
・事業所前公道や排水路を 月 4 回掃除する ・水辺の水^{みまも}り制度(※3)に登録し、水路保全活動を実施する ・地域住民との対話を心掛ける	施設周辺掃除 48 回/年 (4 回/月)	施設周辺掃除 51 回/年 (4 回/月)	○
(※3) 水辺の水^{みまも}り制度とは… 八王子市が管理している公園や緑地、道路等を町会・自治会、市民グループ、学校、企業等の 5 名以上の団体（水辺の水^{みまも}り制度は個人も可）を対象とし、清掃や除草等のボランティア活動を実施する申請登録制度（八王子市公共施設アドプト制度）である。このようなアドプト制度には、公園アドプト制度、道路アドプト制度、水辺の水^{みまも}り制度がある。			

水路清掃前	清掃後
	
	
考 察	
令和5年度は、年間51回の施設周辺清掃が実施でき、目標達成した。 相変わらず、水路や公道側溝にたばこの吸殻や食品包装ごみ等が頻繁に捨てられている。この光景は、特に週明けに多い。 ごみが捨てられている場所には、誰かがまたごみを捨てるという悪循環が起きている。 また、夏場の水路周辺は草の繁茂だけでなく苔の発生も見られるようになった。 誰かが気になければ「住みよいまちづくり」には貢献できない。 また、この地で長年事業を営むことができているのは、近隣住民の理解があつてのことであり、住宅地の中に位置する当社にとって出庫や帰庫時の車両走行は、静かな徐行運転という意識がドライバーに定着しているのも有難い。 次年度も、引き続き施設周辺の掃除を月4回以上実施する。	

⑦ 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無

環境関連法規の該当する要求事項を整理し一覧表にまとめ、毎年定期的に遵守状況の確認及び評価を実施している。

令和5年度は、令和6年6月30日に確認し、評価結果は「適合」であった。違反・訴訟は無く、近隣住民からの苦情も無い。

関連法規等	主な適用範囲	評価結果
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	・一般廃棄物の排出	適合
自動車リサイクル法	・使用済自動車の排出	適合
自動車NOx・PM法	・トラックによる輸送・配送	適合
貨物自動車運送事業法	・トラックによる輸送・配送	適合
道路運送車両法	・トラックによる輸送・配送	適合
道路交通法	・トラックによる輸送・配送	適合
都民の健康と安全を確保する環境に関する条例	・トラックによる輸送・配送	適合
八王子市廃棄物の処理及び再利用の促進に関する条例	・事業系(産業)廃棄物の排出	適合
八王子市下水道条例	・汚水の排出	適合

⑧ 代表者による全体の評価と見直し・指示

「環境経営システムエコアクション 21」の取組み 16 年目となった。

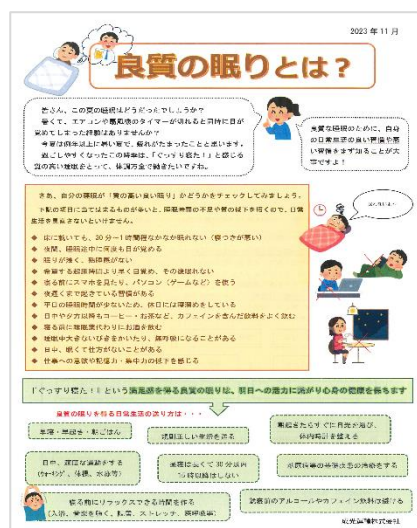
全体の評価としては、順調に PDCA サイクルを回し計画どおりに実施できた。

しかしながら「電気使用量削減」と「ガソリン車の燃費向上」の 2 項目が未達成となったが、軽油使用貨物車の大幅な燃費向上結果から最も地球温暖化を増強させる二酸化炭素排出量の削減目標を達成することができた。

次年度においては、現在の環境経営方針及び実施体制を継続する。そして更なる二酸化炭素排出量削減に挑むため、排出量の 95 %以上を占める貨物車の燃費目標を見直す指示をした。

軽油使用量の削減は、昨今の燃料代高騰が続く中では経費を少しでも減らすことに繋がり、会社経営にとっても大きなメリットである。

引き続き環境配慮・安全配慮は勿論のこと、高齢化している社員の健康維持として「健康教育」にも力を入れる。



全貨物車に備えた非常用袋

